

平成 31 年 2 月 20 日

長崎国際大学  
学長 中島 憲一郎 様長崎国際大学  
薬学研究科長 榎原 隆三 印

## 博士学位請求論文審査報告書および最終試験結果報告書

研究科名	薬学研究科	専攻名	医療薬学専攻
学籍番号	1531D01	氏名	倉岡 卓也
論文題目	Benanomicin A を用いた酵母細胞壁マンナンの新規調製法の有用性		
学位論文概要と意義			
<p>本論文では、従来の真菌細胞壁由来のマンナン調製法が持つ問題点を克服し、マンナン抗原をできる限り無傷の状態で見分け精製できる新規調製法を、Benanomicin A を用いて開発した。本法を用いることによって、はじめて真菌 (<i>Candida krusei</i> 及び <i>Pichia pastoris</i>) の細胞壁由来のマンナンにおいて新しい構造的知見を得ることができた。また、<i>C. krusei</i> 由来のマンナンにおいては、アルカリ不安定な O-グリコシド結合糖鎖を同定することに成功した。さらに、<i>Pichia pastoris</i> マンナンにおいては、その側鎖分布について新たな知見を得た。</p> <p>以上の結果から、本論文において新たに開発された Benanomicin A を利用したマンナン調製法は、病原性 <i>Candida</i> 酵母の細胞壁マンナン構造をより明らかにすることを可能とし、その感染機序の解明や <i>Candida</i> 種の迅速分別診断法の開発に貢献するものと期待される。</p>			
判 定			
<p>〔論文審査の結果の要旨〕</p> <p>「予備審査委員会」委員は、1月10日～2月4日の期間に個別の予備審査を実施し、本論文の加筆・修正を行った。「本審査委員会」は、2月12日に公开发表会を開催し、博士論文発表(30分)および質疑応答(40分)を行い、論文内容および発表態度は良好であったと判断した。引き続き、「本審査委員会」委員は、個別に口頭試問等を行うとともに論文の加筆・修正をさらに指導した。「本審査委員会」の審査結果(合格)を受けて、平成30年度第11回大学院薬学研究科教授会において、本博士学位請求論文の合格の可・否について投票した結果、可となった。尚、本論文の内容の一部は、すでに査読がある英文誌に1報が受理されており、学位修得のための要件は満たしている。</p> <p>〔最終試験の結果〕</p> <p>博士学位請求論文審査および最終試験の結果、<u>合格</u>と判断した。</p>			

※下線部に合格または不合格と記入して下さい。